

IPlytics

特許の価値評価 指標

IPlyticsは、特許ポートフォリオの強み、弱みや位置付けを分析するために、統計的な特許の価値評価指標を利用します。

目次

I. Intro: 特許の価値評価指標	3
II. 技術的関連性 (TR)	4
III. 市場カバー範囲 (MC)	5
IV. 革新性 (RA)	6
V. 法的な幅 (LB)	7
VI. 特許範囲 (SC)	8
VII. 連携 (CO)	9
VIII. チームサイズ (TE)	10
IX. 正規化	11

INTRO

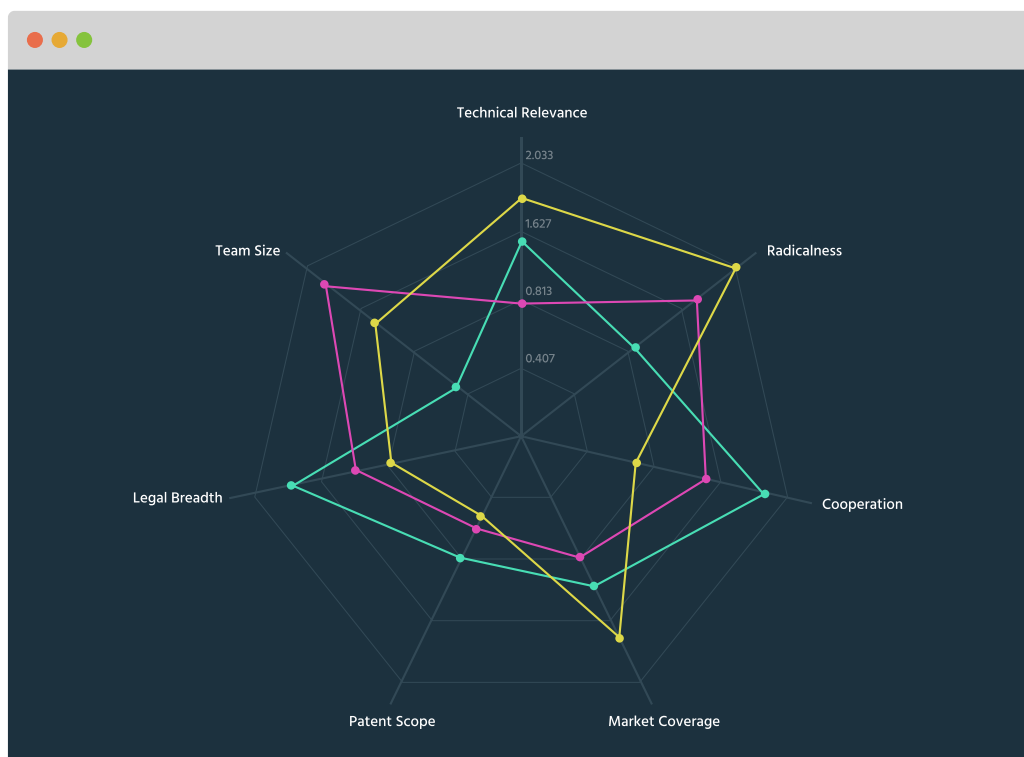
特許の価値評価指標



IPlyticsは、特許ポートフォリオの強み、弱みや位置付けを分析するために、統計的な特許の価値評価指標を利用します。関連指標の計算には、ベルリン工科大学、パリ国立高等鉱業学校、シカゴノースウェスタン大学との緊密な連携の下、科学的に有効な手法が用いられます。

IPlyticsでは、技術的関連性 (TR)、市場カバー範囲 (MC)、革新性 (RA)、法的な幅 (LB)、特許範囲 (SC)、連携 (CO)、チームサイズ (TE) という全7種の特許の価値評価指標が統合されます。以降のページでは、7種類の各指標の計算手法と利用に関する概要を説明します (2～9ページ)。

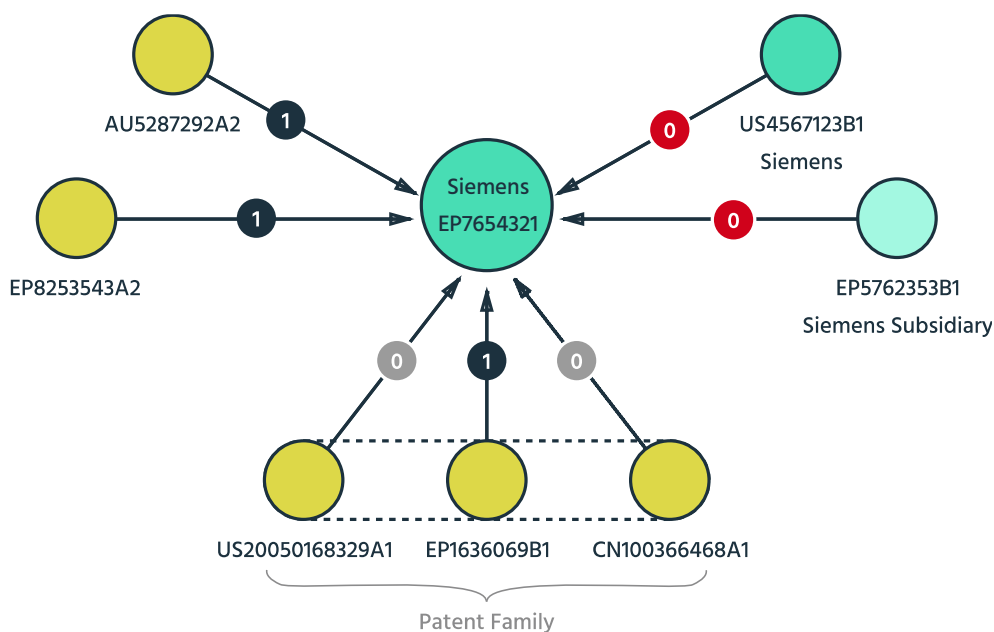
結果が正確なものになるように、IPlyticsは、ある特許の価値を同一基準を満たす他の特許群に対して相対評価することにより、各指標を正規化します。詳しい説明は10ページで確認できます。



TR

技術的関連性

TR(技術的関連性)指標は、ある特許が受ける先行技術引用(前方引用)の数をカウントすることによって計算します。ファミリーの引用時は、引用がカウントされます。自己引用と子会社引用はカウントされません。この数は、最終的に、年、管轄国およびメインIPC/CPCによって正規化されます(10ページ参照)。



/ 高 /

高いTR値は、後続特許が先行技術としてその特許を引用する必要に迫られていることから、特許の技術的関連性の高さを反映しています。特許引用は、客観的かつ有資格の特許審査官によって精査され、検証されます。したがって、TR値が高いということは、特定の市場セグメントの先導技術であることがわかります。

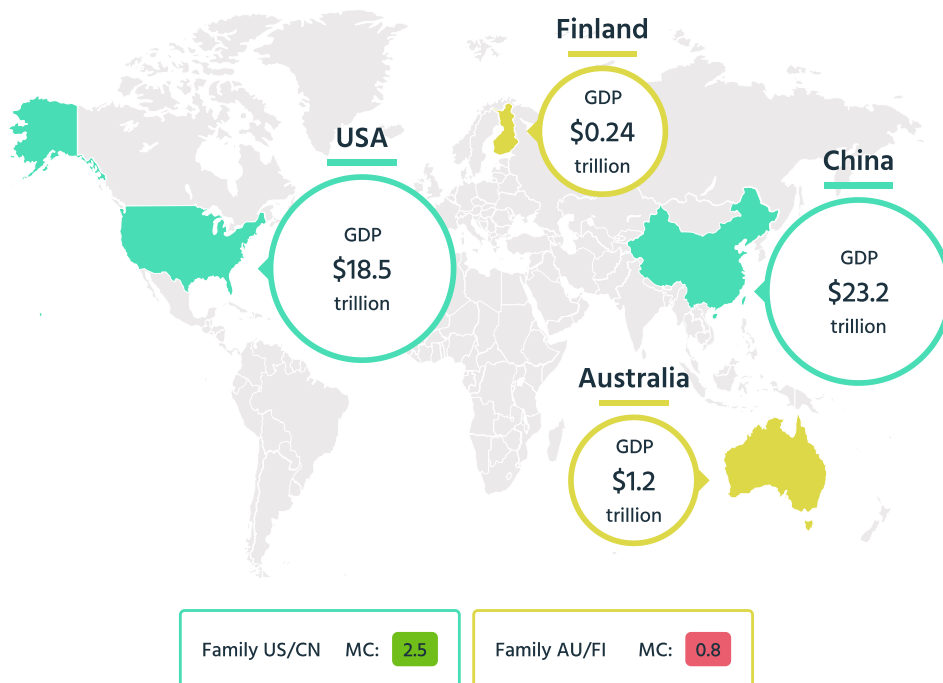
/ 低 /

低いTR値は、後続特許が先行技術としてその特許を引用していないことから、特許の技術的関連性の低さを反映しています。TR値が低いということは、特許がニッチな技術または他の市場参加者に関連のない技術のいずれかを保護していることを表します。

MC

市場カバー範囲

MC(市場カバー範囲)指標は、その特許が出願された国(管轄)の数をカウントし、国ごとのGDPで重み付けして計算します。この数は、最終的に、年、管轄国およびメインIPC/CPCによって正規化されます(10ページ参照)。



/ 高 /

高いMC値は、世界的な国際化戦略と法的な市場保護の広さを反映しています。さらに、MC値が高いということは、出願人にとって認識される特許価値が高いということです。特許出願および特許維持料は、それぞれの特許庁につき相当のコストになります。ある特許の出願先となった国の数が多いほど、その特許発明に認識されている国際市場での潜在能力は高いといえます。

/ 低 /

低いMC値は、地域を限定した国際化戦略と法的な市場保護の狭さを反映しています。ある特許の出願先となった国の数が少ないほど、その特許発明に認識されている国際市場での潜在能力は低いといえます。

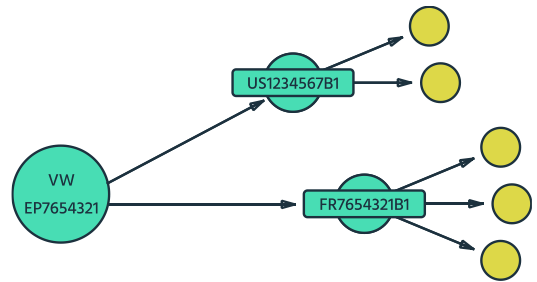
RA

革新性

RA(革新性)指標は、ある特許が先行技術として引用しなければならない特許引用(後方引用)の数をカウントし、引用された特許そのものが行っている引用(引用先後方引用)の回数が多いかどうかを考慮に入れて計算します。この数は、最終的に、年、管轄国およびメインIPC/CPCによって正規化されます(10ページ参照)。

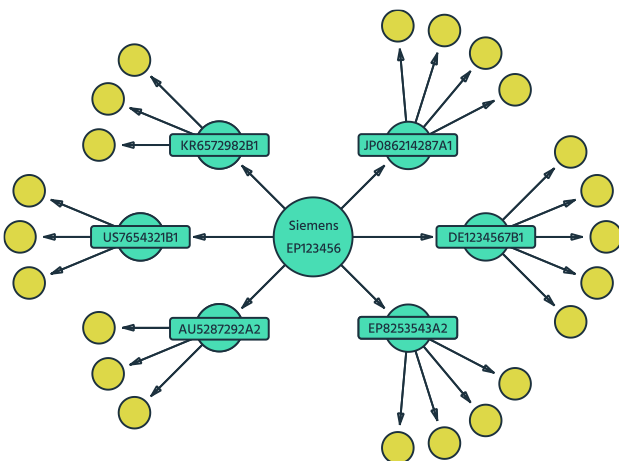
/ 高 /

高いRA値は、ある特定の技術分野における新規性の高さを示します。先行技術の極めて少ない、いわゆる「ホワイトスペース」に特許が出願されたことになります。



/ 低 /

低いRA値は、ある特定の技術分野における新規性が比較的低いことを示します。ある技術が密な特許網によってすでに保護されている、いわゆる「特許の藪」に特許が出願されたことになります。



LB

法的な幅

LB(法的な幅)指標は、最も短い独立クレームに使用されている単語の数をカウントすることによって計算します。特許クレームに単語が加えられていくと、潜在的な特許範囲、さらにはクレームの法的な幅が狭まります。この数は、最終的に、年、管轄国およびメインIPC/CPCによって正規化されます(10ページ参照)。

/ 高 /

高いLB値(最も短いクレームに使用されている単語の数が少ないこと)は、クレームの広さ、ひいては、特許技術の広い法的範囲を示します。



/ 低 /

低いLB値(最も短いクレームに使用されている単語の数が多いため)は、クレームの狭さ、ひいては、特許技術の限定された法的範囲を示します。

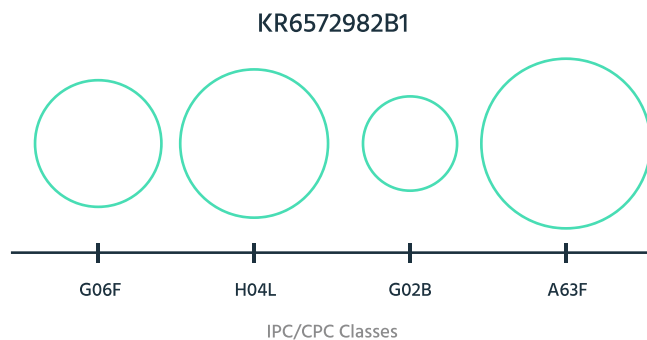
SC

特許範囲

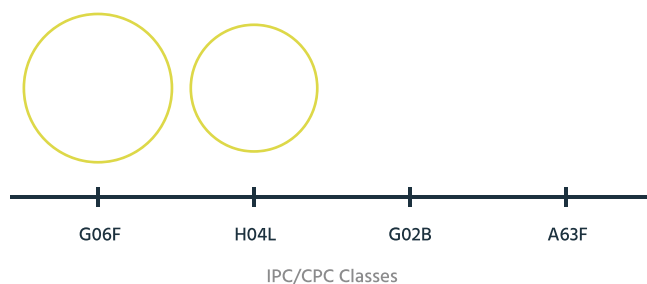
SC(特許範囲)指標は、審査官によって特許が分類された別々のメインIPC/CPCクラス(4桁)の数をカウントすることによって計算します。この数は、最終的に、年、管轄国およびメインIPC/CPCによって正規化されます(10ページ参照)。

/ 高 /

高いSC値は、特許の技術的な適用性の広さを反映しています。多数のメインIPC/CPCクラスに分類された特許ポートフォリオは、横断的な技術であると解釈できます。



US7654321B1



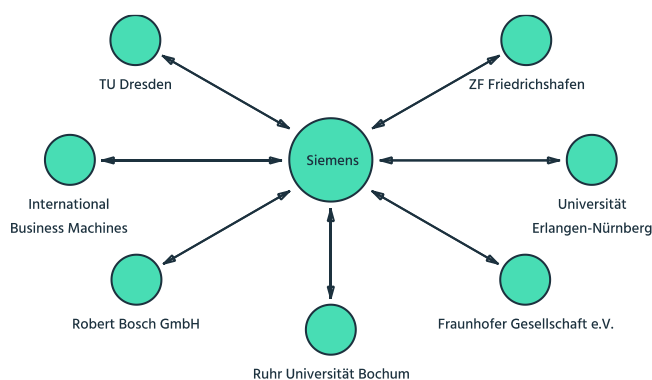
/ 低 /

低いSC値は、特許の技術的な適用性の狭さを反映しています。少数のメインIPC/CPCクラスに分類された特許ポートフォリオは、特化型の技術ソリューションであると解釈できます。

CO

連携

CO(連携)指標は、法的に独立した特許の共同譲受人の数をカウントすることによって計算します。子会社との連携はカウントされません。この数は、最終的に、年、管轄国およびメインIPC/CPCによって正規化されます(10ページ参照)。

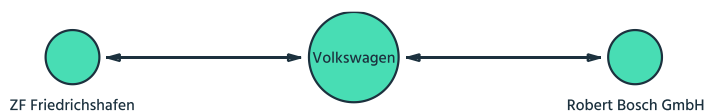


/ 高 /

高いCO値は、他企業との連携の下で技術開発を行う傾向を反映しています。IPlyticsは、企業のツリー情報を利用して、子会社および特許会社との連携を除外します。

/ 低 /

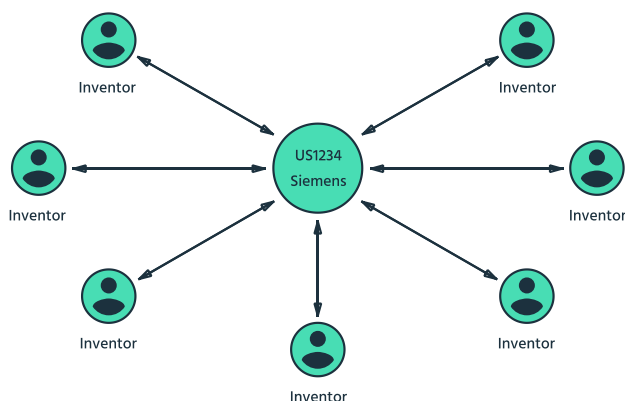
低いCO値は、技術開発において他企業との連携をせず、むしろ内部で研究を行う傾向を反映しています。



TE

チームサイズ

TE(チームサイズ)指標は、ある特許に記載されている発明者の数をカウントすることによって計算します。この数は、最終的に、年、管轄国およびメインIPC/CPCによって正規化されます(10ページ参照)。



/ 高 /

高いTE値は、その特許ポートフォリオが比較的大きな研究グループによって開発されたことを反映しています。この指標は、例えば他の市場参加者の研究開発費と結び付けて、研究活動を相対評価する際に役立ちます。

/ 低 /

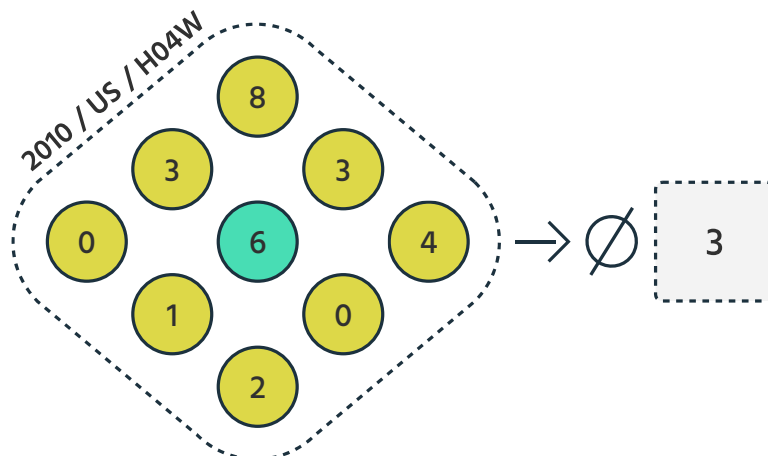
低いTE値は、その特許ポートフォリオが比較的小さな研究グループによって開発されたことを反映しています。



NORM

正規化

異なる特許ポートフォリオを比較可能にするべく、すべての指標は、同じ特許庁、同じIPC/CPCクラスおよび同じ公開年の特許対照グループの平均によって正規化されます。例えば、6つの前方引用を受けている、米国で出願されたIPC/CPC H04W分類の2010年からの特許は、すべてのUS/2010/H04W特許の平均前方引用数と比較されます。その前方引用数が6、平均が3であれば、指標は、平均の倍であることを表す2となります。



$$TR = \frac{\text{前方引用数}}{\text{グループ (2010 / US / H04W) の 平均引用数}} = \frac{6}{3} = 2$$

正規化された指標を使うと、年代や技術的焦点、国の異なる特許ポートフォリオを比較することが可能になります。すべての特許指標は1を標準とするため、次のように解釈されます。

値 >1 : ある特許の値が、技術、国および年の平均を上回ることを示します。

値 <1 : ある特許の値が、技術、国および年の平均を下回ることを示します。